

平成29年度 資格スクール大栄
第147回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ①

商業簿記

問1 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 3月2日の外部への商品販売に関する本店の仕訳を示しなさい。
(2) 本店が関西支店の当期の損益を総合損益勘定へ振り替えたときの仕訳を示しなさい。

(単位：千円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額	
(1)	売掛金	270,000	売上	270,000	◎
	売上原価	190,800	商品	190,800	
(2)	総合損益	10,646	関西支店	10,646	◎

問2 LA支店決算整理後残高試算表(円換算後)における、次の各項目の金額を求めなさい。

(単位：千円)

売掛金	売上原価	貸倒引当金繰入	本店
○ 99,000	○ 66,125	○ 4,950	○ 156,400

問3 日商株式会社の決算整理後合併残高試算表(内部利益控除後)を完成しなさい。

決算整理後合併残高試算表

20X7年3月31日

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金	○ 151,263	買掛金	○ 250,000
売掛金	○ 549,000	貸倒引当金	25,267
商品	○ 378,765	未払費用	550
前払費用	1,073	建物減価償却累計額	○ 78,000
建物	450,000	備品減価償却累計額	○ 51,075
備品	110,000	リース資産減価償却累計額	○ 25,078
リース資産	62,695	リース債務	○ 51,349
土地	530,000	長期前受収益	○ 3,600
貸倒懸念債権	200,000	資本金	1,000,000
売上原価	○ 5,143,975	資本準備金	85,000
営業費用	○ 1,492,896	利益準備金	60,000
棚卸減耗費	○ 12,180	繰越利益剰余金	56,254
商品評価損	○ 5,010	売上	○ 7,466,000
貸倒引当金繰入	○ 17,497	受取利息	8,000
減価償却費	51,634		
支払利息	○ 3,135		
(為替差損)	○ 1,050		
	9,160,173		9,160,173

◎1つにつき2点 4点
○1つにつき1点 21点
合計 25点

(配点は、当学院の予想です)

平成29年度 資格スクール大栄
第146回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ②

会 計 学

第1問

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
エ	イ	イ	ア	エ

各1点 合計5点
(配点は、当学院の予想です)

第2問

問1 前期末における繰延税金資産の金額(純額) : ◎ 5,250 千円

当期末における繰延税金資産の金額(純額) : ◎ 7,500 千円

問2 損益計算書(一部) (単位:千円)

税引前当期純利益		80,000
法人税、住民税、事業税	(◎ 31,500)	
法人税等調整額	(◎ △2,250)	(29,250)
当期純利益		(50,750)

◎1につき2点 8点
(配点は、当学院の予想です)

第3問

問1 A社の個別財務諸表におけるC社株式の金額 : ◎ 900,000 千円

B社の個別財務諸表におけるC社株式の金額 : ◎ 630,000 千円

問2

C社の開始貸借対照表 (単位:千円)

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
諸 資 産	◎ 2,880,000	諸 負 債	○ 1,300,000
の れ ん	◎ 120,000	株 主 資 本	○ 1,700,000
	3,000,000		3,000,000

問3 A社の連結財務諸表におけるC社株式の金額 : ○ 1,020,000 千円

B社の連結財務諸表におけるC社株式の金額 : ○ 732,000 千円

◎1につき2点 8点
○1につき1点 4点
合 計 12点

(配点は、当学院の予想です)

平成29年度 資格スクール大栄
第147回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ③

工業簿記

問1	① 材料仕入高	<u>6,858,750</u>	円
	② 直接材料費	<u>5,075,750</u>	円
	③ 製造間接費	<u>1,743,000</u>	円
	④ 製品完成高	<u>8,108,000</u>	円
	⑤ 売上原価	<u>5,258,000</u>	円
	⑥ 在庫金利	<u>2,850</u>	円
	⑦ 営業利益	<u>1,611,000</u>	円
	⑧ 売上高営業利益率	<u>18</u>	%

問2

- ① 設計 適合性 安全 (いずれかを○で囲みなさい)
- ② 69,000 円
- ③ 予防 評価 失敗 (いずれかを○で囲みなさい)
- ④ 標準 実際 機会 支出 (いずれかを○で囲みなさい)

問3

- ㉞ ×
- ㉟ ○
- ㊱ ×
- ㊲ ○

予想配点	問1	各2点
	問2	②2点 他1点
	問3	各1点

(配点は、当学院の予想です)

平成29年度 資格スクール大栄
第147回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ④

原 価 計 算

第1問

問1

1,844,400

 円

問2

2,411,500

 円

問3

28,800

 円/kg

問4	①	14,400,000
	②	648,000
	③	20,064,000
	④	777,600

問5	①	31,680	(円/kg)
	②	1,716,000	(円)
	③	価値移転 未来原価回避能力 負担力主義 未来収益獲得能力	
	④	差額 標準 平均 実際	
	⑤	8,976,000	(円)
	⑥	2,666,400	(円)
	⑦	798,000	(円)

予想配点	問1～問3	各2点
	問4～問5	各1点

(配点は、当学院の予想です)

第2問

①	90	(%)
②	300	(千円)
③	8	(%)
④	144	(千円)
⑤	X社 Y社	
⑥	高い 低い	

予想配点	①および②	各2点
	③～⑥	各1点

(配点は、当学院の予想です)

商業簿記 解説

[資料Ⅱ] 期末整理事項

I 本店

1. 商品売買に関して

(1) 商品有高帳

商 品 有 高 帳

(金額単位：千円)

日付	摘 要	受 入 高			払 出 高			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
4	期首商品	2,000	90	180,000				2,000	90	180,000
5	仕 入	8,000	100	800,000				10,000	98	980,000
6	外部売上				6,000	98	588,000	4,000	98	392,000
8	仕 入	12,000	102	1,224,000				16,000	101	1,616,000
9	外部売上				10,000	101	1,010,000	6,000	101	606,000
11	仕 入	14,000	111	1,554,000				20,000	108	2,160,000
1	外部売上				17,000	108	1,836,000	3,000	108	324,000
3 1	仕 入	1,500	102	153,000				4,500	106	477,000
	2 外部売上				1,800	106	190,800			
	〃 LA支店売上				1,000	106	106,000	1,700	106	180,200

(2) 残高試算表金額の推定

- ① 商品勘定：1月末残高の324,000千円
 ② 売上原価：588,000千円(6月) + 1,010,000千円(9月) + 1,836,000千円(1月) = 3,434,000千円
 ③ 売 上：150千円 × (6,000個 + 10,000個 + 17,000個) = 4,950,000千円
 ④ 関西支店：400,480千円(関西支店の本店勘定)

(3) 3月度取引

① 仕入

(借方) 商 品 153,000 (貸方) 買 掛 金 153,000
 102千円 × 1,500個 = 153,000千円

② 外部売上

(借方) 売 掛 金 270,000 (貸方) 売 上 270,000
 (借方) 売 上 原 価 190,800 (貸方) 商 品 190,800
 売上高：150千円 × 1,800個 = 270,000千円
 売上原価：106千円 × 1,800個 = 190,800千円

③ LA支店売上

(借方) L A 支 店 121,900 (貸方) L A 支 店 売 上 121,900
 (借方) L A 支 店 売 上 原 価 106,000 (貸方) 商 品 106,000
 売上原価：106千円 × 1,000個 = 106,000千円
 売上高：106,000千円 × 1.15 = 121,900千円

2. 期末商品に関して

(借方) 棚 卸 減 耗 費 3,180 (貸方) 商 品 8,190
 (借方) 商 品 評 価 損 5,010
 棚卸減耗費：106千円 × (1,700個 - 1,670個) = 3,180千円
 商品評価損：(106千円 - 103千円) × 1,670個 = 5,010千円

3. リース取引に関して

(1) 売却

(借方) 備品減価償却累計額 28,305 (貸方) 備 品 85,000
 (借方) 仮 受 金 62,695 (貸方) 長 期 前 受 収 益 6,000
 償却保証額：85,000千円 × 0.09911 ≒ 8,424千円
 減価償却累計額：20X6年3月 85,000千円 × 0.333 = 28,305千円 > 8,424千円 ∴ 28,305千円

(2) リース取引

(借方) リース資産	62,695	(貸方) リース債務	62,695
------------	--------	------------	--------

(3) リース料の支払い

(借方) リース債務	11,346	(貸方) 営業費用	14,481
------------	--------	-----------	--------

(借方) 支払利息	3,135		
-----------	-------	--	--

支払利息：62,695千円×5%≒3,135千円

(4) 決算整理

(借方) 減価償却費	25,078	(貸方) リース資産減価償却累計額	25,078
------------	--------	-------------------	--------

(借方) 長期前受収益	2,400	(貸方) 減価償却費	2,400
-------------	-------	------------	-------

減価償却費：62,695千円×0.400=25,078千円

長期前受収益の取崩：6,000千円×0.400≒2,400千円

4. 固定資産の減価償却に関して

(1) 残高試算表金額の推定346

① 建物減価償却累計額：300,000千円÷25年×4年=48,000千円

② 備品減価償却累計額：備品(事務用)：28,305千円(上記4(1)参照)

(2) 決算整理

(借方) 減価償却費	18,000	(貸方) 建物減価償却累計額	12,000
------------	--------	----------------	--------

(貸方) 備品減価償却累計額	6,000
----------------	-------

建物：300,000千円÷25年=12,000千円

備品(営業用)：償却保証額：60,000千円×0.10800× $\frac{3\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}}$ =1,620千円減価償却費：60,000千円×0.400× $\frac{3\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}}$ =6,000千円>1,620千円 ∴6,000千円

5. 貸倒引当金に関して

(1) 売掛金

(借方) 貸倒引当金繰入	3,640	(貸方) 貸倒引当金	3,640
--------------	-------	------------	-------

(20,000千円+270,000千円)×2%-(6,160千円-貸付金分4,000千円)=3,640千円

(2) 貸付金

(借方) 貸倒懸念債権	200,000	(貸方) 長期貸付金	200,000
-------------	---------	------------	---------

(借方) 現金預金	8,000	(貸方) 受取利息	8,000
-----------	-------	-----------	-------

(借方) 貸倒引当金繰入	7,317	(貸方) 貸倒引当金	7,317
--------------	-------	------------	-------

受取利息：200,000千円×4%=8,000千円

貸倒引当金繰入

キャッシュ・フローの現在価値：2,000千円÷1.04+(200,000千円+2,000千円)÷ $\times 1.04^2$

≒188,683千円

∴(200,000千円-188,683千円)-4,000千円=7,317千円

6. 経過勘定に関して

(借方) 前払費用	623	(貸方) 営業費用	623
-----------	-----	-----------	-----

II 関西支店

1. 期末商品に関して

(借方) 棚卸減耗費	9,000	(貸方) 商品	9,000
------------	-------	---------	-------

棚卸減耗費：157,580千円-148,580千円=9,000千円

2. 固定資産の減価償却に関して

(1) 残高試算表金額の推定

① 建物：150,000千円(資料Ⅱ.4より)

② 備品：50,000千円(資料Ⅱ.4より)

③ 備品減価償却累計額：

償却保証額：50,000千円×0.09911≒4,956千円

減価償却費：20X3年3月期 50,000千円×0.333=16,650千円>4,956千円 ∴16,650千円

20X4年3月期 (50,000千円-16,650千円)×0.333≒11,106千円>4,956千円

$\therefore 11,106$ 千円

 $20X5$ 年3月期 $(50,000$ 千円 $-16,650$ 千円 $-11,106$ 千円) $\times 0.333 \approx 7,407$ 千円

 $> 4,956$ 千円 $\therefore 7,407$ 千円

 $20X6$ 年3月期 $(50,000$ 千円 $-16,650$ 千円 $-11,106$ 千円 $-7,407$ 千円) $\times 0.333 \approx 4,941$ 千円

 $< 4,956$ 千円

 $\therefore (50,000$ 千円 $-16,650$ 千円 $-11,106$ 千円 $-7,407$ 千円) $\times 0.334 = 4,956$ 千円
減価償却累計額： $16,650$ 千円 $+11,106$ 千円 $+7,407$ 千円 $+4,956$ 千円 $=40,119$ 千円

(2) 決算整理

(借方)	減価償却費	10,956	(貸方)	建物減価償却累計額	6,000
			(貸方)	備品減価償却累計額	4,956

建物： $150,000$ 千円 $\div 25$ 年 $=6,000$ 千円備品： $(50,000$ 千円 $-16,650$ 千円 $-11,106$ 千円 $-7,407$ 千円) $\times 0.334 = 4,956$ 千円

3. 貸倒引当金に関して

(借方)	貸倒引当金繰入	1,590	(貸方)	貸倒引当金	1,590
------	---------	-------	------	-------	-------

 $160,000$ 千円 $\times 2\% - 1,610$ 千円 $=1,590$ 千円

4. 経過勘定に関して

(借方)	前払費用	450	(貸方)	営業費用	450
(借方)	営業費用	550	(貸方)	未払費用	550

5. 損益勘定の作成

(1) 損益勘定

損		益	(単位：千円)
売上原価	1,461,000	売上	2,147,000
営業費用	675,100	本店	10,646
棚卸減耗費	9,000		
貸倒引当金繰入	1,590		
減価償却費	10,956		
	<u>2,157,646</u>		<u>2,157,646</u>

(2) 振替仕訳

① 関西支店

(借方)	本店	10,646	(貸方)	損益	10,646
------	----	--------	------	----	--------

① 本店

(借方)	総合損益	10,646	(貸方)	関西支店	10,646
------	------	--------	------	------	--------

Ⅲ LA支店

1. 3月度の商品売買取引(単位：千ドル)

(1) 本店より商品の仕入

(借方)	商品	1,150	(貸方)	本店	1,060
			(貸方)	仮払金	90

本店：本店のLA支店売上より(外貨 $121,900$ 千円 $\div 115$ 円 $=1.060$ 千ドル)

(2) 商品の販売

(借方)	売掛金	900	(貸方)	売上	900
(借方)	売上原価	575	(貸方)	商品	575

 $(1,000$ 個 -500 個) $\times 1.8$ 千ドル $=900$ 千ドル
 $1,150$ 千ドル $\times \frac{500\text{個}}{1,000\text{個}} = 575$ 千ドル

(3) 貸倒引当金に関して

(借方)	貸倒引当金繰入	45	(貸方)	貸倒引当金	45
------	---------	----	------	-------	----

 900 千ドル $\times 5\% = 45$ 千ドル

2. L A支店の財務諸表項目の換算(支店)

科 目	円換算前(単位：千ドル)		換算レート	円換算後(単位：千円)	
	借 方	貸 方		借 方	貸 方
(貸借対照表)					
現 金 預 金	150		110円 (CR)	16,500	
売 掛 金	900		110円 (CR)	99,000	
貸 倒 引 当 金	△45		110円 (CR)	△4,950	
商 品	575		115円 (HR)	66,125	
本 店		1,360	(注1)		156,400
当 期 純 利 益		220	貸借差額		20,275
合 計	1,580	1,580		176,675	176,675
(損益計算書)					
売 上		900	110円 (CR)		99,000
売 上 原 価	575		115円 (HR)	66,125	
営 業 費 用	60		110円 (CR)	6,600	
貸倒引当金繰入	45		110円 (CR)	4,950	
為 替 差 損	—		貸借差額	1,050	
当 期 純 利 益	220		B/Sより	20,275	
合 計	900	900		99,000	99,000

(注1) 34,500千円+121,900千円=156,400千円

IV 決算整理後合併残高試算表の作成

(1) 内部取引と照合勘定の相殺

(借方) L A 支 店 売 上	121,900	(貸方) 商 品(本店仕入)	121,900
(借方) 商 品	106,000	(貸方) L A 支 店 売 上 原 価	106,000
(借方) 本 店	400,480	(貸方) 関 西 支 店	400,480
(借方) 本 店	156,400	(貸方) L A 支 店	156,400

(2) 内部未実現利益の控除

(借方) 売 上 原 価	7,950	(貸方) 商 品	7,950
--------------	-------	----------	-------

106千円×15%×500個=7,950千円

会計学 解説

第1問

模範解答参照

第2問（仕訳の単位：千円）

I 前期末

繰延税金資産：20,000千円×35%＝7,000千円

繰延税金負債：5,000千円×35%＝1,750千円

∴ 前期末における繰延税金資産の金額（純額）：7,000千円－1,750千円＝5,250千円

II 当期末

法人税、住民税、事業税：(80,000千円＋10,000千円)×35%＝31,500千円

前期末における繰延税金資産の金額（純額）：(10,000千円＋20,000千円－5,000千円)×30%＝7,500千円

法人税等調整額：7,500千円－5,250千円＝2,250千円

第3問（仕訳の単位：千円）

問1

共同新設分割後におけるA社の議決権比率は60%、B社の議決権比率は40%であるが、A社とB社で共同で支配するので、C社はA社およびB社の関連会社となる。

A社およびB社のともに移転した事業に関する投資が継続しているとみて、移転損益を認識しない。

事業を分離先C社に移転したことにより受け取るC社株式の取得原価は、移転事業資産負債の適正な帳簿価額による純資産（株主資本相当額）にもとづき算定する。

A社：1,500,000千円－600,000千円＝900,000千円

B社：1,330,000千円－700,000千円＝630,000千円

問2

1. A社からのa事業受入れ

(借方)	諸	資	産	1,500,000	(貸方)	諸	負	債	600,000
					(貸方)	株	主	資	本
									900,000

2. B社からのb事業受入れ

(借方)	諸	資	産	1,380,000	(貸方)	諸	負	債	700,000
(借方)	の	れ	ん	120,000	(貸方)	株	主	資	本
									800,000

株主資本：400千円×2,000株＝800,000千円

問3

1. A社の持分法適用による仕訳

(借方)	C	社	株	式	120,000	(貸方)	持	分	変	動	差	額	120,000
------	---	---	---	---	---------	------	---	---	---	---	---	---	---------

100%支配していたa事業のうち40%を、事業分割によりB社に移転することで、a事業に対する持分比率が60%に下落するので、B社へ移転する40%部分について持分変動額を計上する。

＊(時価1,200,000千円－簿価900,000千円)×40%＝120,000千円

∴ 連結上のC社株式：900,000千円＋120,000千円＝1,020,000千円

2. B社の持分法適用による仕訳

(借方)	C	社	株	式	102,000	(貸方)	持	分	変	動	差	額	102,000
------	---	---	---	---	---------	------	---	---	---	---	---	---	---------

100%支配していたb事業のうち60%を、事業分割によりA社に移転することで、b事業に対する持分比率が40%に下落するので、A社へ移転する60%部分について持分変動額を計上する。

＊(時価800,000千円－簿価630,000千円)×60%＝102,000千円

∴ 連結上のC社株式：630,000千円＋102,000千円＝732,000千円

工業簿記・原価計算 解答・解説

<工業簿記のポイント>

材料の消費額の計算ができたかどうかにかかっています。予定消費単価が与えられておらず、引取費用（外部材料副費）と内部材料副費を予定配賦しなければいけません。また、材料払出単価の計算を先入先出法で行うために、時間がかかって焦ってしまったかもしれません。おちついて指図書別原価計算表を作成できたかどうかポイントになります。

問1

①材料仕入高

引取費用の予定配賦率：引取費用予算2,520,000円÷予定購入量36,000kg＝70円/kg

内部材料副費の予定配賦率：内部材料副費予算9,000,000円÷購入代価予算72,000,000＝0.125円/円

10日分：購入代価2,000円/kg×1,500kg＋引取費用70円/kg×1,500kg＋内部材料副費2,000円/kg×1,500kg×0.125円/円＝3,480,000円

23日分：購入代価1,940円/kg×1,500kg＋引取費用70円/kg×1,500kg＋内部材料副費1,940円/kg×1,500kg×0.125円/円＝3,378,750円

合計：3,480,000円＋3,378,750円＝6,858,750円

②直接材料費：指図書別原価計算表の直接材料費欄の合計

③製造間接費：指図書別原価計算表の製造間接費欄の合計

④製品完成高：指図書別原価計算表のNo.116、No.121、No.122、No.123の合計欄の合計

⑤売上原価：指図書別原価計算表のNo.116、No.121、No.123の合計欄の合計

⑥在庫金利：完成・未販売No.122の完成高2,850,000円×0.1%＝2,850円

⑦営業利益：売上高8,950,000円－売上原価5,258,000円－研究開発費1,200,000円－減価償却費450,000円－在庫金利2,850円－修理代金36,000円－その他販管費392,150円＝1,611,000円

⑧営業高営業利益率：営業利益1,611,000円÷売上高8,950,000円＝18%

指図書別原価計算書

(単位：円)

	116	121	122	123	123-1	124	125
月初仕掛品	1,200,000	—	—	—	—	—	—
直接材料費	—	690,000	1,390,000	928,000	—	1,160,000	907,750
直接労務費	250,000	275,000	575,000	377,500	37,500	160,000	200,000
直接経費	240,000	180,000	360,000	240,000	—	300,000	—
製造間接費	210,000	252,000	525,000	346,500	31,500	168,000	210,000
小計	1,900,000	1,397,000	2,850,000	1,892,000	69,000	1,788,000	1,317,750
仕損費	—	—	—	69,000	△ 69,000	—	—
合計	1,900,000	1,397,000	2,850,000	1,961,000	0	1,788,000	1,317,750
備考	完成・販売	完成・販売	完成・未販売	完成・販売	123へ賦課	仕掛中	仕掛中

問2 解答参照

問3 解答参照

<原価計算のポイント>

第1問は連産品の基本的な計算問題ですので問1～問4でしっかり得点してください。問5は負担能力主義と差額原価の概念から解答を導いてほしいところです。

第1問

仕 掛 品		
月初 200 kg (100 kg)	完成 820 kg	7,847,400 円 (22,115,400 円)
投入 800 kg	減損 80 kg (40 kg)	765,600 円 (1,078,800 円)
	月末 100 kg (50 kg)	957,000 円 (1,348,500 円)
9,570,000 円 (24,542,700 円)	1,000 kg (910 kg)	

問1 正常減損費：765,600円＋1,078,800円＝1,844,400円

問2 追加配賦後の月末仕掛品原価

月末仕掛品への追加配賦額：1,844,400円×50kg÷(820kg＋50kg)＝106,000円

957,000円＋1,348,500円＋106,000円＝2,411,500円

問3 連産品Bの単位原価

結合原価：9,570,000円＋24,542,700円－2,411,500円＝31,701,200円

副産物評価額：(見積売価@1,100円－見積販売費@40円)×20kg＝21,200円

正常市価

連産品A：(見積売価@83,600円－見積販売費@83,600円×10%)×200kg＝15,048,000円

連産品B：(見積売価@33,440円－見積販売費@33,440円×10%)×600kg＝18,057,600円

按分原価

連産品A：(31,701,200円－21,200円)×15,048,000円÷(15,048,000円＋18,057,600円)
＝14,400,000円

連産品B：(31,701,200円－21,200円)×18,057,600円÷(15,048,000円＋18,057,600円)
＝17,280,000円

連産品Bの単位原価：17,280,000円÷600kg＝28,800円/kg

問4

製品別損益計算書

(単位：円)

	A	B
売 上 高	16,720,000	20,064,000
売 上 原 価	14,400,000	17,280,000
売 上 総 利 益	2,320,000	2,784,000
販 売 費	1,672,000	2,006,400
営 業 利 益	648,000	777,600

問5 解答参照

第2問 解答参照